

平成27年度 第2回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会  
( 概 要 )

1 開催日時

平成27年 9月2日(水) 13時30分～15時30分

2 開催場所

岐阜森林管理署 岐阜森林事務所 会議室

3 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) 情報交換等
- (3) その他

4 検討結果

価格解析結果では一部の販売ブロックにおいて木材価格が「定常範囲を逸脱する動き」を確認したものの、各委員からの意見等を総合的に勘案した結果、現時点において国有林材の供給調整を実施する「必要性はない」と判断する。

5 委員意見等

- ・ 前年と比べると民有林からの出材は少ない。国有林の委託・システムがないと厳しい状態。暑さと雨のせい今年は特に材の痛みが早い。
- ・ ヒノキの価格が下がっていることから民有林は出材を見合わせている。9月以降に期待したい。
- ・ お盆を過ぎてもなかなか需要が伸びない。輸出もあまり出なくなった。注文住宅はある程度伸びてきているが、規格住宅・建売りが非常に悪い。底が見えない状態。消費税の絡みもあり、需要が伸びることに期待したい。
- ・ 今まで林業にあまり手をかけてこなかった地域のほうが、今逆に勢いがある。昔から林業に力を入れてる地域は今の価格で出材したくないし、材価がいい時代も知っている。逆に力を入れてこなかった地域はB, C材がメインになっている今の流れに順応している。
- ・ 国産材製品については価格が高いわけではないのに使用されない。安定的供給がされない、使いすぎると価格が上がるとの警戒心から使われない。価格の安定、安定的供給、品質の安定さえあれば、国産材にもチャンスがある。それには生産が低コストで安定的な供給体制を作ることが必要。国有林には民有林の手本となり、普及させるような供給システムを期待したい。
- ・ 大手への流れはできてきたが、中小への流れが不十分。国には中小の山主、工場へのてこ入れを進めてもらいたい。そうしないとA材の流れができない。